

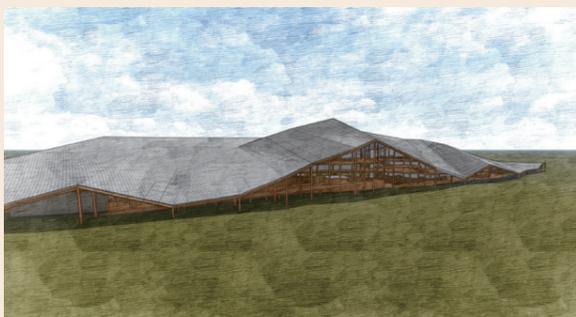
段差というまちに恵みをもたらした地形の記憶を刻み、
段差という空間性質を利用して過ごしやすい空間を作る。

1. Back ground - 我孫子市の今 - 2. Concept

都心への好アクセス性や手賀沼周辺の自然環境・眺望、比較的安い土地価格などにより、都市にみられるようなマンションや住宅が増加している。



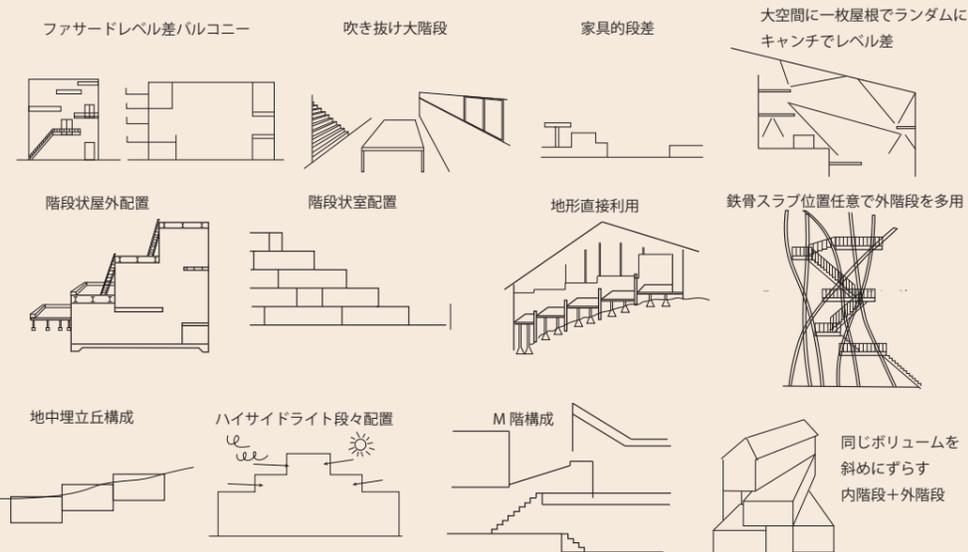
- 段差が生み出す豊かなまち -



都心から少し離れた静かなまちで暮らすため、我孫子のまちに引っ越してきた。なにやら水のまわりで子供たちが楽しそうに遊んでる。そういえば、しなきゃいけない手続きがあったんだ。ついでに市役所よっていこう！

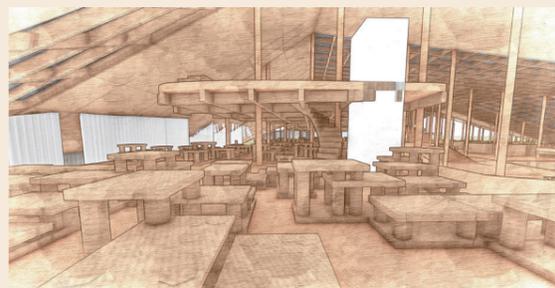
3. Research - 段床建築のパタン出し -

影響要素	段床建築
空間	階段状に室空間を配置
空間	地形を直接利用した段床形成
空間	鉄骨にスラブを任意の位置に配置する
空間	キャンチによる無柱空間
空間	M階構成
空間	一部空間を持ち上げる
空間	空間、用途、棟を分節する
空間	空間全体が階段による構成
空間	吹き抜けに階段を設ける
空間	大空間に一枚屋根をかけ、ランダムにキャンチでレベル差のある空間を設ける
環境	ハイサイドライトの段状配置
環境	H型シンプルプラン
環境	水の導線にレベル差をつける
外観+空間	階段状に屋外を設け、キャンチでレベル差のある室内空間を形成する
外観	ボリュームを地中に埋めて丘を形成
外観	屋根を地面と接続させる
外観	同じボリュームを斜めにずらす
開口	窓の高さ位置をランダムにする
開口	キャンチによりバルコニーにレベル差をつける
家具	家具的に段差を設ける



4. Step (段差)

段差は物理的な境界を持ちつつも視線や音を遮らず、相互の気配を保ったまま相手との距離を調節することができる。この「緩やかな境界」は壁でもフラットでもない第三の選択肢として、多様な使い方を許容しつつ、他者が気持ちよく同じ空間にいることができるのではないか。



- 段差による境界を設計 -

○学習場所

・利用者：地元の学生→小学生	机460 mm	椅子260 mm
中学生	580 mm	340 mm
高校生	640 mm	380 mm
社会人・大学生	700 mm	420 mm
行政職員		
高齢者	670 mm	400 mm
車いす利用者	700 mm	

5. City

まちの特徴

- ・自然を大切にしてきたまち
- ・過去の都市化による水質汚染

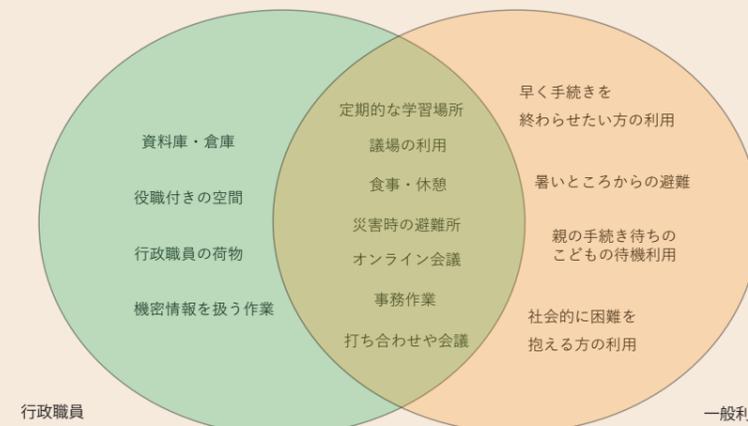
まちの問題に対するアプローチ

- ①高層マンションの増加
→建物全体の高さを抑える。
- ②多国籍住民と移住者の増加
→建築表現で自然配慮を促す。



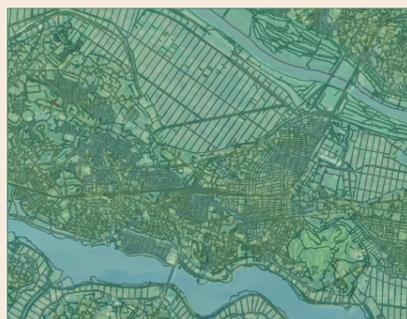
6. Program

Closed ← → Open



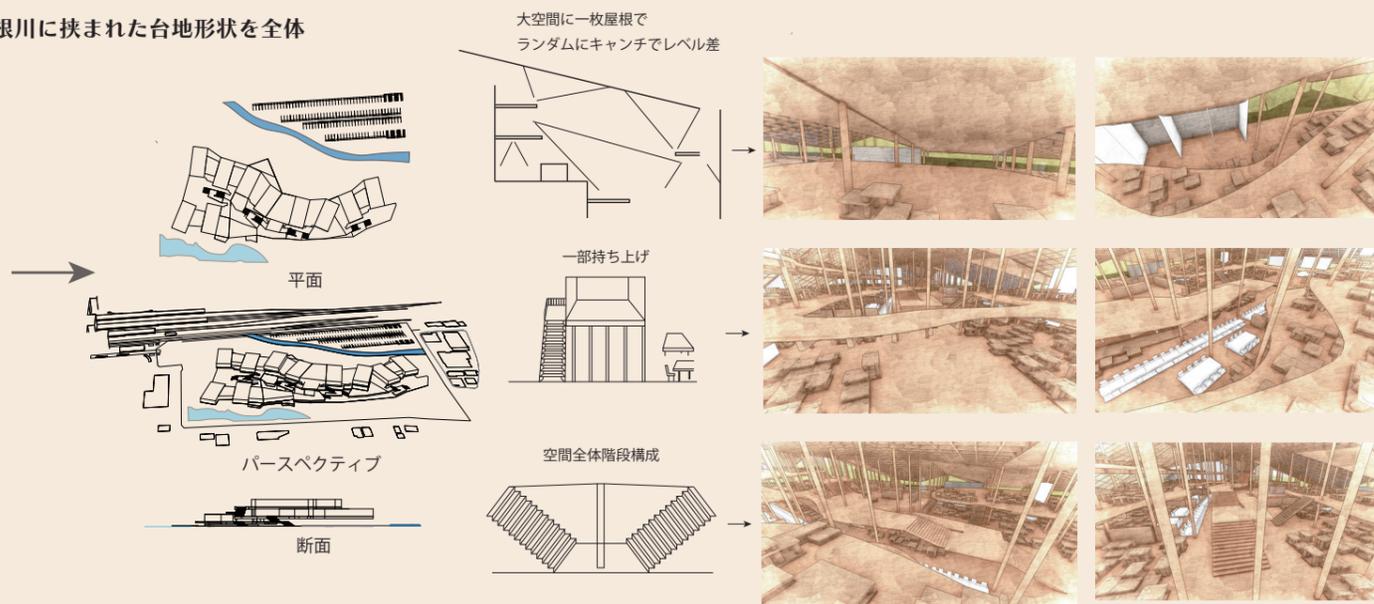
7. Digram - 建築の形態操作と空間構成 -

我孫子市の自然の象徴である手賀沼と利根川に挟まれた台地形状を全体のボリュームとして配置する。

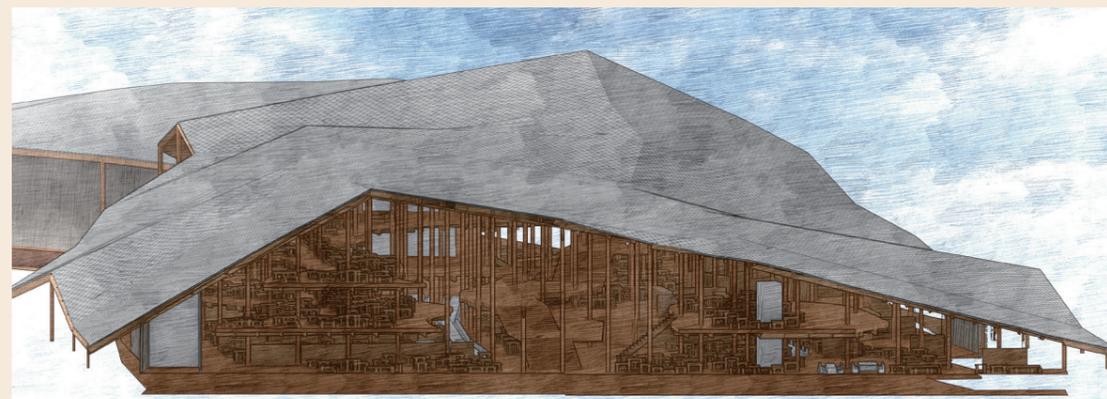


我孫子市の航空写真

我孫子市の原風景モデル



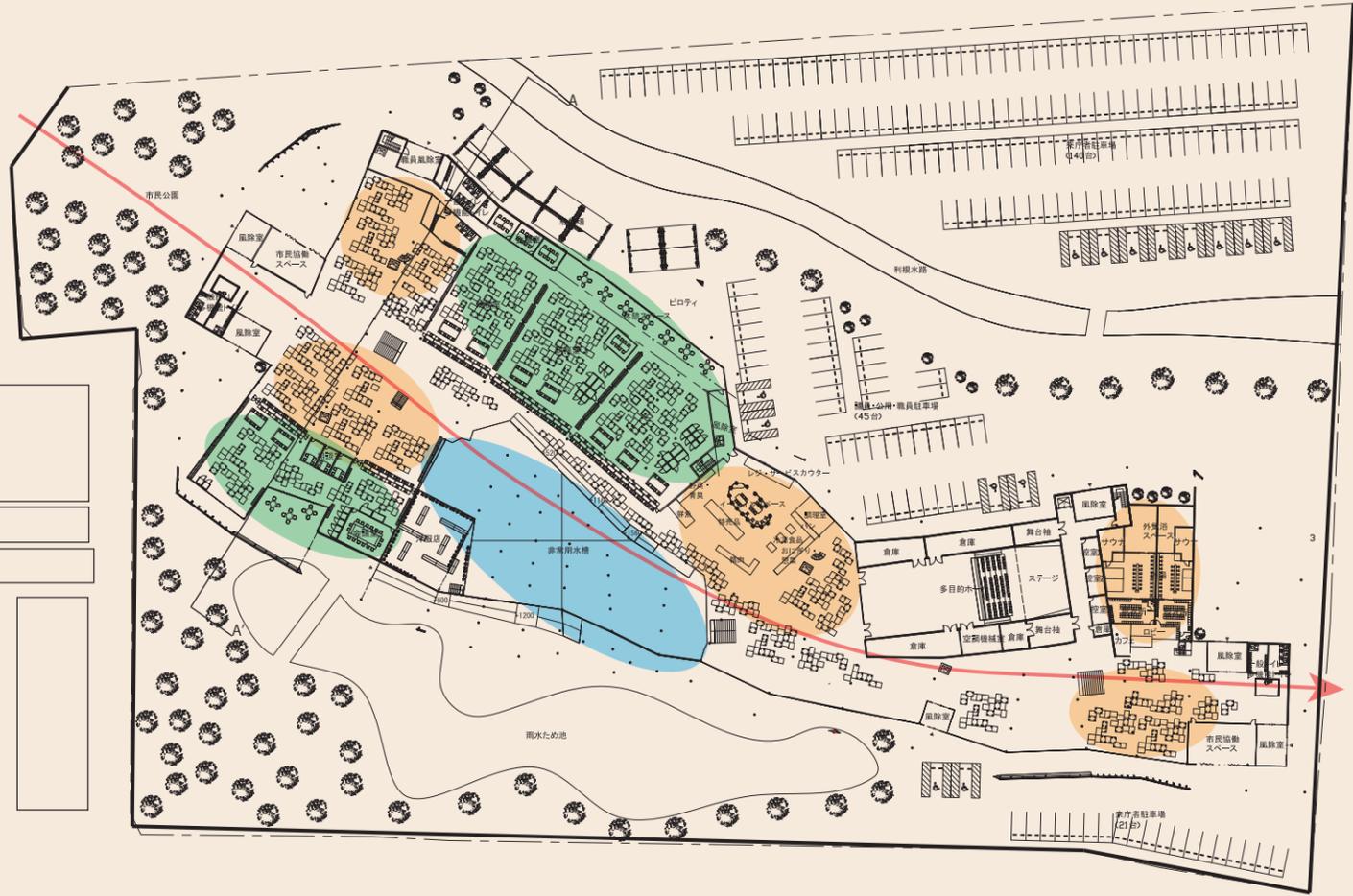
8. Cross section perspective



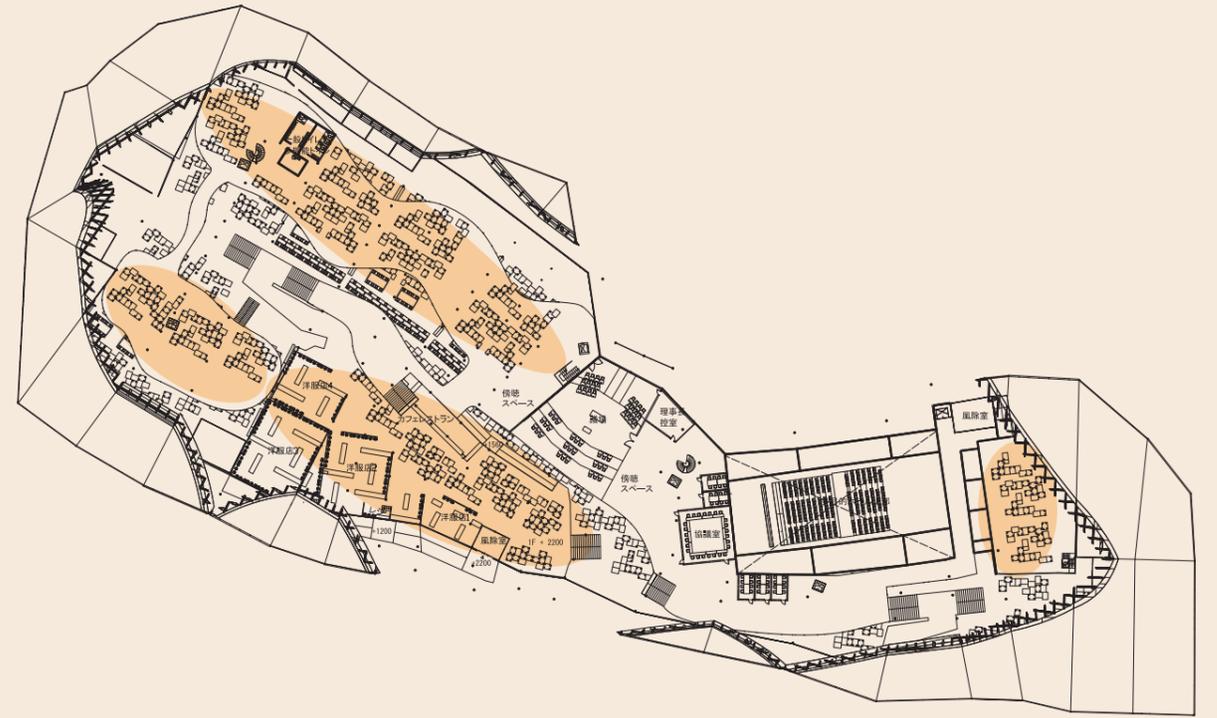
行政エリア



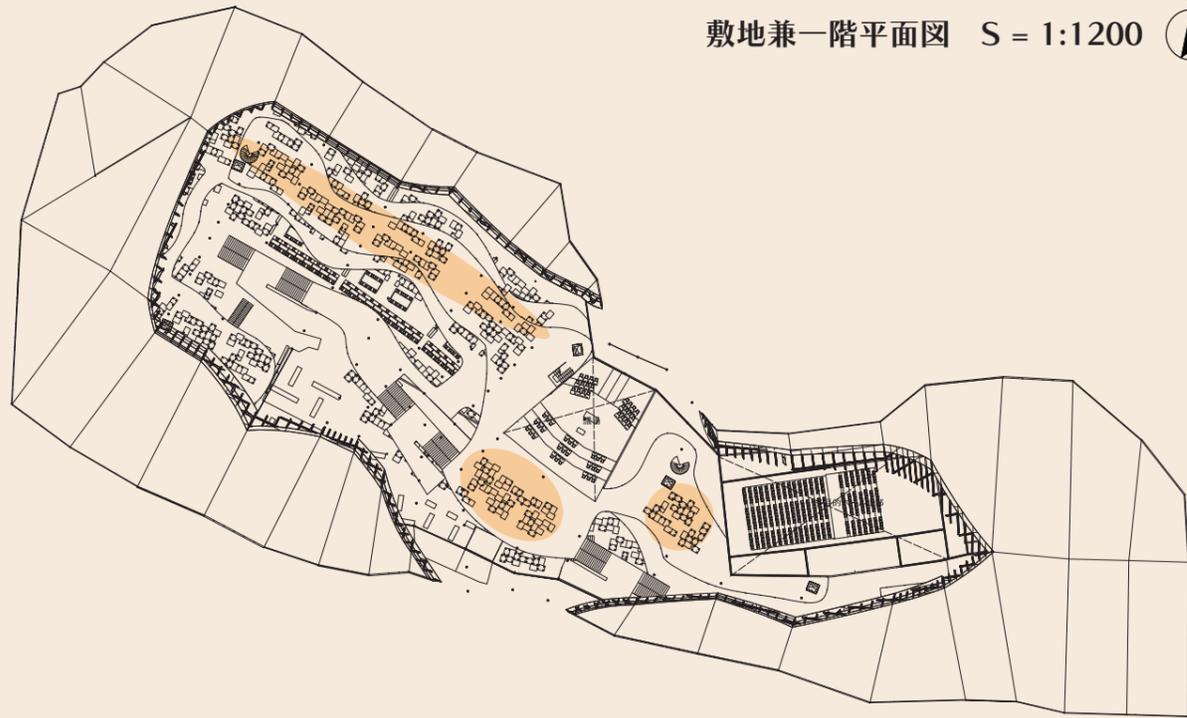
市民エリア



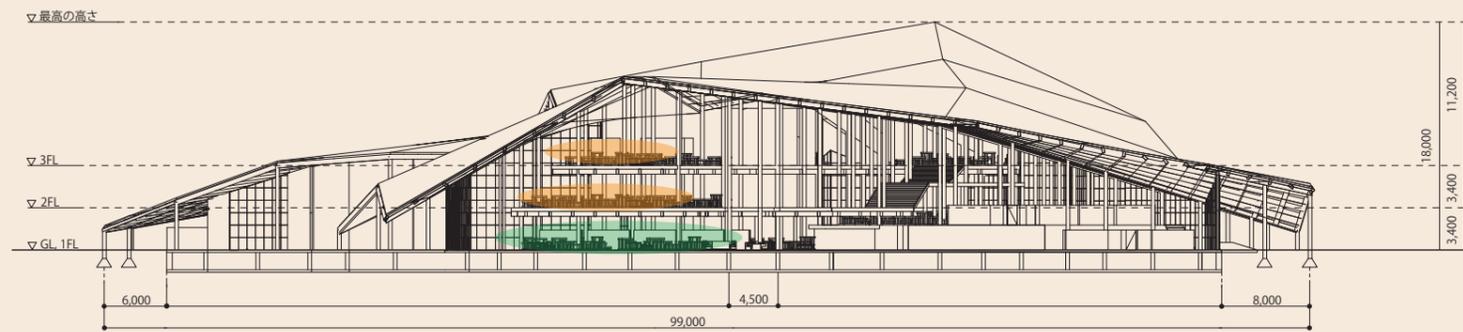
敷地兼一階平面図 S = 1:1200



二階平面図 S = 1:1200



三階平面図 S = 1:1200



A-A' 断面図 S = 1:600